

SDGs は以下の言葉の頭文字を取ったものであり、日本語では『**持続可能な開発目標**』と呼ばれています。

- **Sustainable** (持続可能な)
- **Development** (開発の)
- **Goals** (目標)

『Goals』と複数形で表記されている通り、複数の目標が含まれています。

具体的には、**17 個の目標**です。

ESD は以下の言葉の頭文字を取ったものであり、日本語では『**持続可能な開発のための教育**』とされています。

- **Education** (教育)
- for (～のための)
- **Sustainable** (持続可能な)
- **Development** (開発)

文部科学省はまた、ESD を『**持続可能な社会づくりの担い手を育む教育**』とも[表現](#)しており、

- 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの**人間性**を育むこと
- 他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、『**関わり**』『**つながり**』を尊重できる個人を育むこと

これらの**2 点**が重要と言っています。

SDGs vs. ESD : 目的の違い

SDGs は、国連開発計画（UNDP）の表現を参考にすると、『**すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすること**』が目的であるように受け取れます。

持続可能な開発目標（SDGs）、通称「グローバル・ゴールズ」は、[貧困](#)に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指す普遍的な行動を呼びかけています。（引用：[国連開発計画（UNDP）駐日代表事務所 Web サイト](#)）

SDGs vs. ESD : 管轄の違い

SDGs と ESD とでは、推進母体に若干の違いがあります。

SDGs は**国連全体**ですが、ESD は**ユネスコ**（※）です。

ユネスコは国連の専門機関の 1 つです。WHO（世界保健機関）や WTO（世界貿易機関）の仲間ですね。

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization の頭文字をとって、**UNESCO**（ユネスコ）です。

SDGs と **ESD** は、時期に関しても違いがあります。というか、時期は被っていません。

年代が古いのは ESD で、**2005～2014 年**です。

[内閣官房 Web サイト](#)を参照すると、2002 年の『**持続可能な開発に関する世界首脳会議（通称：ヨハネスブルク・サミット）**』において、**日本**が提言した『**持続可能な開発のための教育の 10 年**』が各国の賛同を得ました。

そして、**2005年～2014年**を『持続可能な開発のための10年』とすることが決まったのです。

一方のSDGsは、**2015年**にニューヨーク国連本部で開催された『**国連 持続可能な開発サミット**』に端を発しています。

サミットの成果文書である『[我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ](#)』には、**2030年**までの取り組みであることが明記されています（文書2枚目の下から2行目）。

ESDの区切りがついた後に、SDGsが始まっています。

ESDは完全に消えたわけではなく、SDGsの**目標4『質の高い教育をみんなに』**の中の**ターゲット4.7**に、ESDは**組み込まれている**のです。

ターゲット4.7

2030年までに、**持続可能な開発のための教育**及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

ESD無くして、SDGsの達成はありえません。

SDGsの達成には、ESDの存在が不可欠なのです。

SDGsは、ロボットではなく我々人間が懸命に取り組んで達成するものです。

そして、我々人間を育てるのは、やはり『**教育**』です。

SDGsの方向を向いた人間を育てるのは、同じ『**持続可能な開発**』を取り扱うESDなのです。

文部科学省はとても分かりやすい文書『[ESD（持続可能な開発のための教育）推進の手引き](#)』を出してくれているのですが、この資料は、**ESD に SDGs を加えて整理**したものです。

手引きには、以下の通りに書かれています。

SDGs 全体では、それぞれの目標が独立したものではなく、相互に関係し、時には相反する価値を追求することもあります。そのような中で教育もまた、独立した目標ではなく、むしろ、「**教育が全ての SDGs の基礎**」であり、「**全ての SDGs が教育に期待**」している、とも言われています。特に、ESD は持続可能な社会の担い手づくりを通じて、17 全ての目標の達成に貢献するものです。2017年12月の国連総会決議では、**ESD が「質の高い教育に関する持続可能な開発目標に不可欠な要素であり、その他の全ての持続可能な開発目標の実現の鍵**」であることが確認されました。

教育の現場で ESD を通じて SDGs の分野にも理解を深めた**人材**が、世に出て成長して力を発揮し、SDGs の達成に貢献していくのです。

子どもたちにも！

【SDGs(持続可能な開発目標)】達成の担い手を育む教育

「ESD 教育」とは、「Education for Sustainable Development(=持続可能な開発のための教育)」を略した言葉です。

「ESD 教育(持続可能な開発のための教育)」の第一歩は、まず「知る」こと

■ESD 教育とは？

「ESD 教育」とは、「Education for Sustainable Development」を略した言葉で、「持続可能な開発のための教育」という意味です

国連が掲げる「SDGs(持続可能な開発目標)」は、将来にわたって世界中の人々が豊かに暮らしていくために、達成すべき17の目標から成ります。「SDGs(持続可能な開発目標)」の考え方を子どもたちにも知ってもらい、持続可能な社会づくりの担い手を育てようと、世界の教育の場で取り入れられています。

環境・貧困・人権・平和・開発など、世界にはさまざまな課題があります。これらの課題は遠い国で起きている他人事のように感じる人もいるかもしれませんが、世界中の人々がこれからも豊かな暮らしを続けていくことができる社会を実現するためには、世界にはどんな課題があるのかを知り、解決に向けて私たち一人ひとりがどう行動すればよいのかを考えなければなりません。

「ESD教育(持続可能な開発のための教育)」は、SDGsが目指す「持続可能な社会」の担い手を育てようとする教育のことを言います。

将来の社会をつくっていくことになる子どもたちにも、現代社会のさまざまな課題と持続可能性の考え方を、今から教えていこうという取り組みの一つがESD教育なのです。

■社会のさまざまな課題を知ることから、始めよう！

世界には、地球温暖化、資源の枯渇、環境破壊、貧富の差、ジェンダーなどの人権にまつわる問題など、世界中の人が安心して暮らしていくために解決しなければならないさまざまな課題があります。

また、文部科学省がESD教育において、子どもたちに教えるべき現代社会の課題として挙げている項目には、「環境」「国際理解」「世界遺産や地域の文化財」「気候変動」「生物の多様性」「防災」「エネルギー」などがあります。

これらはすべて、「持続可能な社会」をつくっていくために、知っておいてほしいことです。一つひとつのテーマは以前からあるもので、目新しいテーマではありませんが、「持続可能な社会をつくっていく」という目的を中心に置いて、バラバラではなく、総合的に考えていこうとするのがESD教育の考え方です。

たとえば、「ごみを分別すれば資源になる」と知らなければ、分別することはできません。集中豪雨で川が増水したときに、自分のいる地域がどのくらい浸水しそうか知らなければ、安全に避難することはできません。また、他の国の文化を知らなければ、互いに理解し合うことが難しくなってしまいます。

「地球温暖化と言われても、自分とどう関わるのかよくわからない」と考えていては、地球温暖化をくい止めるための行動にはつながりません。「ペットボトルを使い捨てるよりは、資源ごみとして分別すると、地球温暖化の防止に役立つようだ」と知ることができれば、「資源としてリサイクルされるように、きちんと分別しよう」と行動が変わります。知ることによって価値観が変わり、価値観が変わることによって行動につながっていくのです。

まずは、社会にある課題を知ることが最も大切です。ESD 教育では、広い視野で世界にはどのような問題があるのかを知り、身近な取り組みから始めることで、自らの問題として行動に移すことを目指しています。

こうした学びや活動から、持続可能な社会を実現する担い手を育てていこうというのが ESD 教育の大きな目的です。

ESD 教育(持続可能な開発のための教育)の目的

日本における ESD 教育の目的については、文部科学省が以下のように「目的」や「育みたい力」を上げています。

[ESD の目標]

- 全ての人が質の高い教育の恩恵を享受すること
- 持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれること
- 環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすこと

[育みたい力]

- 持続可能な開発に関する価値観(人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等)
- 体系的な思考力(問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方)
- 代替案の思考力(批判力)
- データや情報の分析能力
- コミュニケーション能力
- リーダーシップの向上

※引用元 : ESD (Education for Sustainable Development) : 文部科学省

育みたい力としては、まず、人権や多様性を尊重し合う気持ちや、環境保護の視点を持つといった、**持続可能な開発に関する価値観を育てることが**挙げられています。さらに、体系的に考える力や、「Aがダメなら、Bはどうだろう」と批判的に考える力、データや情報を分析する力、リーダーシップの向上といったことも挙げられます。

少子高齢化やグローバル化が進む現代において、これからの社会を支えていくには、多様な人々がお互いに認め合い、協力し合って、課題を解決していく力が必要とされています。また、データを分析して論理的に考えたり、柔軟に考えたりする力も求められます。

身近な課題に取り組み、世界の課題へと視野を広げて考えることを通して、こうした力を育むことも ESD 教育の目的の一つです。

SDGs(持続可能な開発目標)と ESD 教育(持続可能な開発のための教育)の関係

■ SDGs(持続可能な開発目標)にまつわる教育の問題

2015年に国連で採択された「SDGs(持続可能な開発目標)」は、持続可能な社会をつくっていくために、世界中のすべての人々が取り組むべき目標やターゲットをまとめたものです。持続可能な社会とは、世界中の人々が豊かに暮らし続けていくことができる社会という意味があります。17ある目標では、地球の環境や資源を守ることと経済の発展を両立し、貧富の差やジェンダーの問題、戦争などの争いをなくすことなどを目指しています。

これらの目標のうち、教育に関わるのは「目標 4.質の高い教育をみんなに」です。

世界には、家庭が貧しくて小さいうちから働いていたり、「女の子だから」というだけで、教育を受けられなかったりする子どもが大勢います。この目標では、性別、障害の有無、生まれた地域や国に関わらず、すべての人が質の高い初等教育と中等教育を無償で受けることができ、高等教育を受ける機会を公正に得ることができるようにすることが、主なターゲットになっています。

さらに、すべての人が持続可能な開発の促進に関わるように、生活に関すること、人権、男女の平等、戦争と平和、国際文化や多様性について、知識を学び、技能を習得することができるようにする、という ESD 教育の基礎となるターゲットも示されています。

このように、SDGs と ESD 教育は相互に関係しているのです。

日本でのESD教育(持続可能な開発のための教育)の事例

日本でも、小学校、中学校、高校などで、ESD教育を実践する学校が増えています。最後に実際に行われているESD教育の事例をご紹介します。

■ユネスコスクールでの事例

ユネスコスクールとは、ユネスコ憲章に示されたユネスコ(UNESCO=国際連合教育科学文化機関)の理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校のことです。日本では文部科学省とユネスコにより、ユネスコスクールがESD教育の推進拠点として位置づけられています。日本国内では2019年11月現在、小学校、中学校、高校を含む1,120校が、ユネスコスクールのネットワークに参加しています。

ここでは2014年に発表された、ユネスコスクールESD優良実践事例集から、2つの事例をご紹介します。

- 岡山市立京山中学校(文部科学大臣賞)

ESD教育の観点から「ESDカレンダー」を図式化して、身につけたい力を計画的に身につけることに取り組みました。1年生は地域でのフィールドワークの基礎を学び、2年生では広島での研修を中心に、平和、人権や国際理解、環境の学習を進めました。3年生では、熊本県水俣市でのフィールドワークを中心に、環境問題などのテーマを個人で設定し、地域や未来への提言として発信しています。

全校的に取り組んだことで、生徒だけでなく、教員や保護者の意識も変わってきたと報告されています。

- 岡崎市立男川小学校(小学校賞)

地域に生息する昆虫を観察することで、自然を生かした理科の探求学習に取り組みました。5～6月には、チョウの孵化(ふか)や羽化の様子を観察しました。6～7月には昆虫標本の製作に取り組み、「ふるさと男川の昆虫標本」を完成させました。その後、専門家のカブトムシについての講演を聞いたり、調べた昆虫の体のつくりを模型で表したりして、学習したことを「ふるさと男川昆虫図鑑」にまとめました。

実物の昆虫の生態に触れることから始まって、自ら考え調べる姿勢、互いの意見を聞き合う態度に成長が見られたということです。

ここに挙げたのは、ほんの一例です。ほかにもさまざまな実践例があり、学校教育の場で ESD 教育が広まりを見せていることがわかります。

■企業の間でも広まる ESD 教育の取り組み

学校だけでなく、企業の間でも ESD 教育をサポートする取り組みが広がっています。

SDGs や ESD 教育がテーマにしている「持続可能性」を学べるように、さまざまな企業がそれぞれの得意分野を生かして、環境、科学、食育、IT などのテーマから SDGs を学べる出張授業やワークショップを行っています。

SDGs は今、日本の中学校や高校の授業でも取り上げられていますが、授業以外でも、世界の課題について生徒達で話し合ったり、部活動として SDGs 部を立ち上げたりといった動きが広がりを見せています。こうした活動を支援するためのプロジェクトに協力している企業もあります。

これらの企業による、活動や支援も、ESD 教育（持続可能な開発のための教育）の一例と言えるでしょう。

日本での ESD 教育は、学校教育の場を中心にこれからますます増えていくと思われます。持続可能な社会をつくる担い手を育てるためには、子どもたちが世界にある課題を「知ること」が第一歩です。家庭でも、今からお子さんと一緒に、SDGs や ESD 教育について知る機会をつくってみましょう。きっとお子さんの学びを深めるきっかけになるはずです。

文部科学省のホームページでも、小学生や中学生向けの教材が公開されています。「何から始めたらいいか、わからない」というときは、ぜひ参考にしてください。

【この記事に関連する目標】

※他の目標とも関連していますが代表的なものをあげています。

- [SDGs 目標 4](#)
[質の高い教育を](#)
[みんなに](#) [SDGs 目標 4](#)
[質の高い教育を](#)
[みんなに](#)
- すべての学習者が持続可能な開発を促進するために必要な知識・技能を得る必要がある
- [SDGs 目標 12](#)
[つくる責任](#)

[つかう責任](#) [SDGs 目標 12](#)

[つくる責任](#)

[つかう責任](#) -

- すべての人が知識を得ることで、「つかう責任」に意識的に向き合う層が増える
- [SDGs 目標 17](#)

[パートナーシップで](#)

[目標を達成しよう](#) [SDGs 目標 17](#)

[パートナーシップで](#)

[目標を達成しよう](#) -

- 持続可能な開発を促進するために必要な知識、技能を習得した人が増えることで、各所でより良いパートナーシップを結ぶことができる

[文部科学省が公開している教材]

ESD QUEST(イーエスディー クエスト)

<http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/pdf/ESDQUESTstorybook.pdf>

中学生向けの副教材『私たちがつくる持続可能な世界～SDGS をナビにして』(外務省・日本ユニセフ協会作成)

https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/sdgs_navi.pdf

[参照元]

ESD (Education for Sustainable Development) : 文部科学省

<https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm>

実践例から学ぶ ESD～持続可能な開発のための教育～ | シンギュラリティ・ラボ

https://sinlab.future-tech-association.org/column/shinlabo_hensyu_bu/umi_esd_education/

ユネスコスクール 公式ウェブサイト

<http://www.unesco-school.mext.go.jp/>

ユネスコスクール : 文部科学省

<https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339976.htm>

ユネスコスクール ESD 優良実践事例集

http://www.unesco-school.mext.go.jp/TEMP/?action=common_download_main&upload_id=8509

Home | 経団連 | KeidanrenSDGs

<https://www.keidanrensdgs.com/home-jp>

17の目標と食品産業とのつながり：目標4に対する取組：農林水産省

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sdgs/goal_04.html#goal_top

世界の社会課題に向き合う全国高校生を繋ぐ「SDGs ユースプロジェクト」 | サステナブルな社会へ from Benesse (よく生きる)

https://www.benesse.co.jp/brand/category/education/20190528_1/

ESDの基本的な考え方

ESDの学習や活動で取り上げるテーマ、内容は必ずしも新しいものばかりではありません。過去からの連続性を考え、それらをESDという新しい視点から捉え直すことによって「持続可能な社会の構築」という共通の目的を与えることが可能になります。

これは、具体的な活動の展開に明確な方向づけをするものです。

また、それぞれの取り組みを一つの独立したものとして考えるのではなく、お互いを結びつけることで、既存の取り組みの一層の充実や発展を図ります。

